

【証券コード】6301

KOMATSU

個人投資家向けイブニングオンライン会社説明会



成長戦略と業績および株主還元について

コマツ

取締役（兼）常務執行役員CFO 堀越 健

2023年3月20日（月）

1. コマツの概要と強み
2. 中期経営計画
—成長戦略とESG課題解決—
3. 業績および株主還元について

1. コマツの概要と強み
2. 中期経営計画
—成長戦略とESG課題解決—
3. 業績および株主還元について

創業者 竹内 明太郎（高知県宿毛市出身）の志

工業富國基

工業は国を富ませる基なり

人材育成こそが工業富國基の基本

➤ 鉱山機械開発のため小松鉄工所を設立（1917年）

➤ 1921年5月13日 株式会社小松製作所の誕生

創業の精神は、遺伝子として受け継がれる

～世界に通用する技術を生み出し、世界を相手に勝負する～



創業者 竹内 明太郎

◆品質第一

◆技術革新

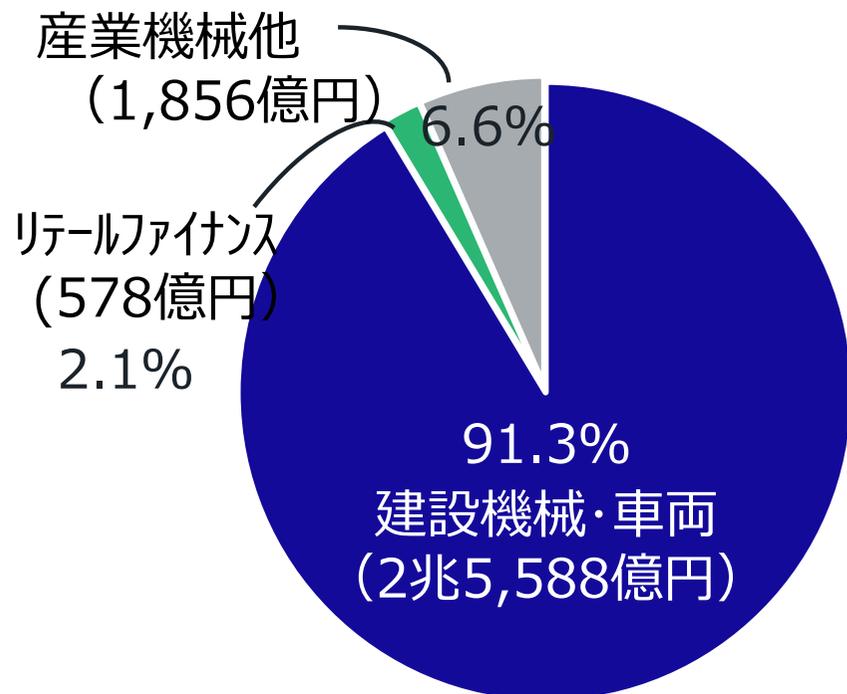
◆海外への雄飛

◆人材育成

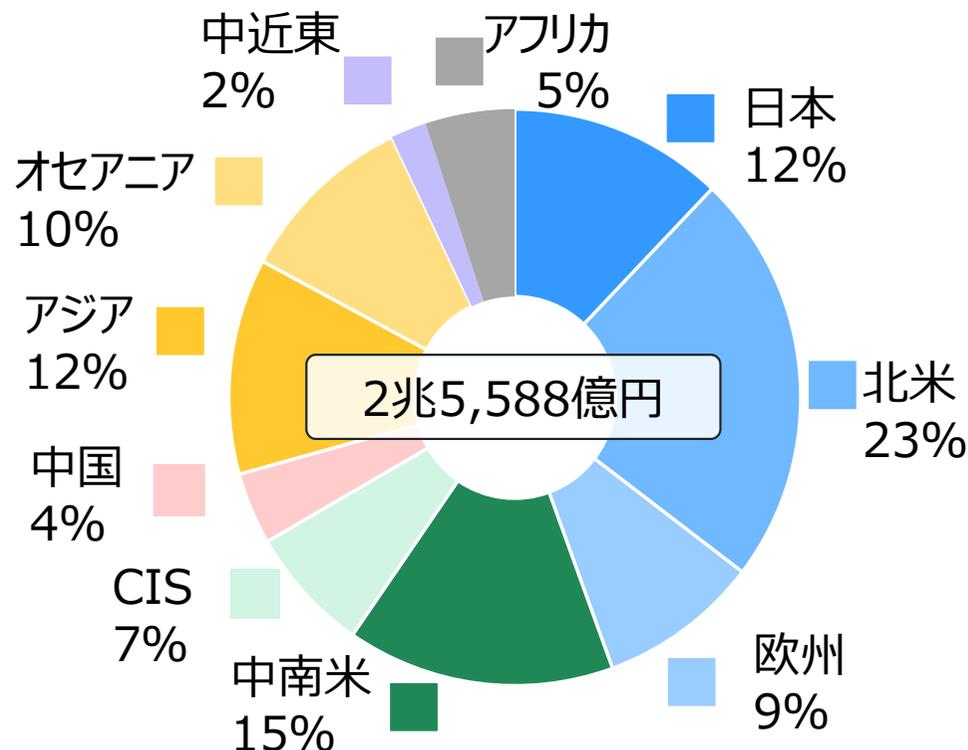
コマツの概要 (2022年3月期実績)

- ・設立 : 1921年5月13日
- ・連結売上高 : 2兆8,023億円
- ・営業利益 : 3,170億円
- ・総資産 : 4兆3,475億円
- ・連結子会社 : 213社
(日本) 12社 (海外) 201社
- ・連結従業員数 : 62,774人
社員の約68%は外国籍

事業別の売上高*構成



建設機械・車両事業の地域別売上高*構成



*売上高は外部顧客向け (セグメント間取引消去後) ベース

主要商品（建設・鉱山機械）

- ・ 建設・鉱山機械はインフラ開発や都市化の促進、鉱山資源の採掘に使われる。
- ・ 林業機械は木材の持続的な活用に貢献。グループ会社化を通じ事業を拡大。



油圧ショベル



土木



林業



ハーベスター



ブルドーザー



鉱山・採石



農畜産



ホイールローダー



ダンプトラック



解体・産廃・リサイクル



物流



フォークリフト



クラッシャー付
油圧ショベル

主要商品（鉱山機械：採掘工法別）

- ・ 鉱山の採掘工法は、地表近くを採掘する「露天掘り」と地層深くを採掘する「坑内掘り」があり、採用する工法によって使用される鉱山機械が異なる。
- ・ コマツマイニング（旧ジョイ・グローバル社）をグループに加え、鉱山機械のラインナップを拡充。

露天掘り

主な製品



油圧ショベル



ダンプトラック



ロープショベル



坑内掘り

主な製品



ロードホールドラック



ドリルジヤンボ



採掘機

グローバル開発・生産体制

- 開発と生産の一体化： 開発・生産機能を持つ工場＝「マザー工場」
- 主要コンポーネントは日本で開発・生産し、国内で技術革新を生み出す
- 本体の組立は、需要の大きい地域で行う → 海外生産比率61 % (21年度)

建設機械・車両の主な生産拠点（車体工場）

●●●…開発機能を併せ持つ「マザー工場」



現地組立・生産の目的

- ① 顧客の信頼を勝ち取る
- ② 品質問題の早期解決
- ③ 現地仕様の取り込み
- ④ リードタイムの短縮
- ⑤ 為替リスク対応

地域別の生産拠点数 *坑内掘り鉱山機械の現地組立工場を含む

米州	欧州 CIS	中近東 アフリカ	アジア	中国	日本	合計
36(1)	16(4)	2	10	8	14(4)	86(9)

()内はマザー工場数

キーコンポーネント



ディーゼルエンジン



油圧機器



アクスル

ハイブリッドショベルのキーコンポーネント



発電機モーター



旋回電気モーター



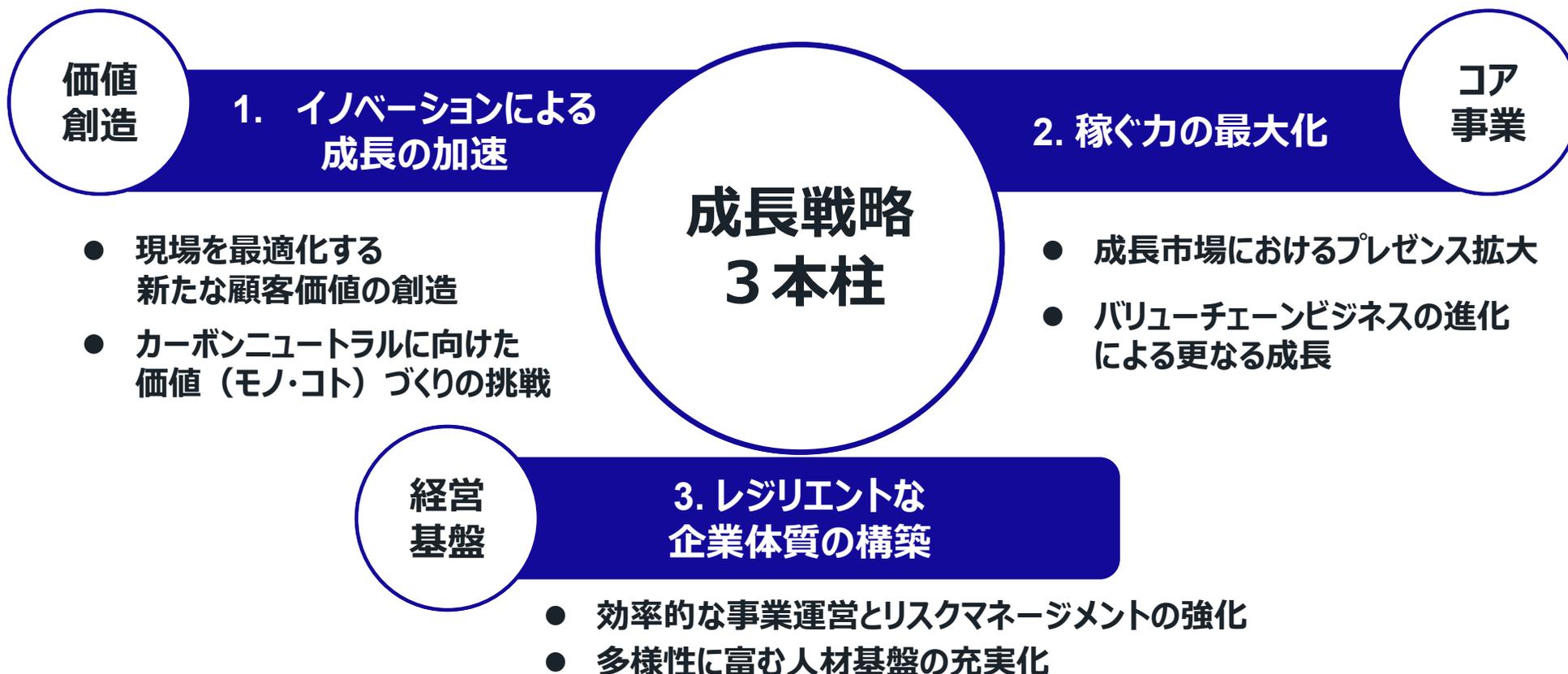
キャパシター
*セルを除く

海外 生産率	2019 年度	2020 年度	2021 年度
	66%	65%	61%

1. コマツの概要と強み
2. **中期経営計画**
—成長戦略とESG課題解決—
3. 業績および株主還元について

DANTOTSU Value

Together, to “The Next” for sustainable growth



3本柱の共通テーマ

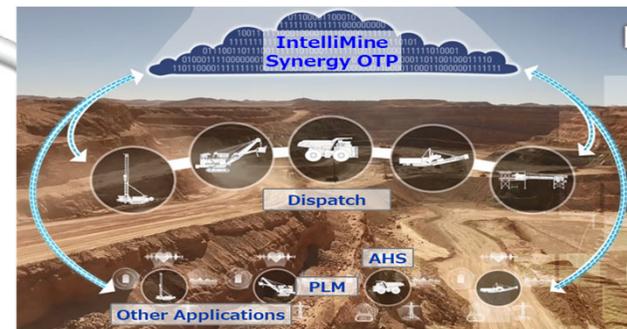
- パートナーシップの拡大
- あらゆる分野でのDX推進

成長戦略における主な重点活動

DXスマート
コンストラクション
の推進



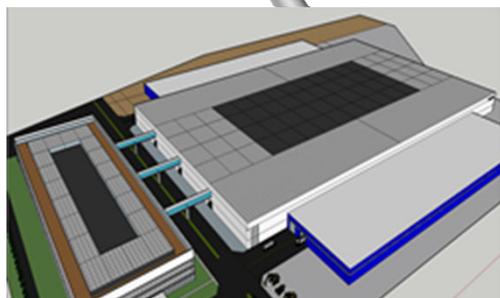
鉱山用オープンテクノロジー
プラットフォーム



現場を最適化する
新たな顧客価値の創造

イノベーションによる 成長の加速

カーボンニュートラルに向けた
価値（モノ・コト）づくりの挑戦



地球環境負荷ゼロ工場



スマート林業の普及・推進



電動化機械の開発・導入

建設・鉱山機械のカーボンニュートラルに向けた取り組み

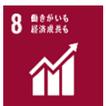
- 建設・鉱山機械の機種・クラス・地域ごとに様々な方法でアプローチ。

	～2021	2022	2023	～2030	
小型ショベル フォークリフト	鉛バッテリー 	有線電動 	バッテリー電動 HONDAと協業 電動 ミニショベル PC30E-5  電動 マイクロ ショベル PC01E-1 PC05E-1	リチウムバッテリー 電動 フォーク FE25G FE30G  3トン量産モデル 23年度市場導入	
中大型ショベル	ハイブリッド 		バッテリー電動 KOMATSU PC 210r 	燃料電池 水素エンジン Proterra社との協業 20トンクラス 22年度量産、23年度市場導入	
ホイール ローダー			バッテリー電動 	ムーグ社と共同開発 22年コンセプトマシン発表	
鉱山機械 (地表)	ディーゼルエレクトリック、 トロリー 	有線電動 	パワーアグノスティック 	バッテリー電動 21年 コンセプトマシン発表 燃料電池 水素エンジン テストベンチ 設置 	パワーアグノスティック 25年：バッテリートロリー 30年：燃料電池
鉱山機械 (地下)	ハイブリッド 		バッテリー電動 ドリルジャンボ 21年度試作 22年度量産 	Proterra社との協業 ボルタ 22年度試作 22年度量産 LHD 22年度試作 23年度量産 	

出力サイズ

成長戦略を通じたESG課題解決

- 2021年に制定したサステナビリティ基本方針に基づき、事業活動を通じて社会に貢献していくことを目指している。
- マテリアリティ（重要課題）と関連性の高い、10のSDGsゴールを選定。
- 中期経営計画の成長戦略を通じたESG課題解決を着実に遂行していくためにKPIを設定。

	SDGsとの関係	中期経営計画のKPI 24年度目標 例
人と共に マテリアリティ： 「社員」「人権」	 ジェンダー平等  働きがいと経済成長  不平等をなくす  パートナシップ	女性管理職比率 グローバル：13%以上 DX、AI人材の育成 3年累計受講者数 DX 実践/入門：180/900 AI 実践/入門：30/90
社会と共に マテリアリティ： 「顧客」 「倫理・統治」 「地域社会」	 産業と技術革新  まちづくり  つくる・つかう責任  パートナシップ	スマコン導入現場数 24年度単年度 グローバル：13,000現場 マルチソーシング比率 BCP対応 92% AHS累計導入台数 グローバル：740台 ガバナンス・コンプライアンスの徹底 取り組み実績を開示
地球と共に マテリアリティ： 「環境」	 クリーンエネルギー  産業と技術革新  つくる・つかう責任  気候変動への対策  陸の豊かさ  パートナシップ	生産によるCO2排出削減率 2010年比△45% 再生可能エネルギー使用比率 20% 製品使用によるCO2排出削減率 2010年比△24% 建設鉱山機械の電動化推進 開発ステップ、市場導入機種 の拡大

中期経営計画の経営目標について

- 経営目標は、成長性、収益性、効率性、健全性、およびESGの構成・内容を継続。
- ESGには、新たに「2050年カーボンニュートラル」をチャレンジ目標として追加。
- 株主還元は、成長戦略への重点投資を優先しながら、安定的な配当の継続に努める方針を継続。

項目	経営指標	経営目標
成長性	売上高成長率	業界水準を超える成長率
収益性	営業利益率	業界トップレベルの利益率
効率性	ROE	10%以上
健全性	ネットD/Eレシオ	業界トップレベルの財務体質
リテール ファイナンス事業	ROA	1.5% – 2.0%
	ネットD/Eレシオ	5倍以下
ESG	環境負荷低減	<ul style="list-style-type: none"> • CO₂排出削減：2030年50%減（2010年比） 2050年 カーボンニュートラル (チャレンジ目標)
	外部評価	<ul style="list-style-type: none"> • 再生可能エネルギー使用率：2030年50% • DJSI*選定（ワールド、アジアパシフィック） • CDP** Aリスト選定（気候変動、水リスク）
株主還元	連結配当性向	<ul style="list-style-type: none"> • 成長への投資を主体としながら、株主還元(自社株買いを含む)とのバランスをとる • 連結配当性向を40%以上とする。

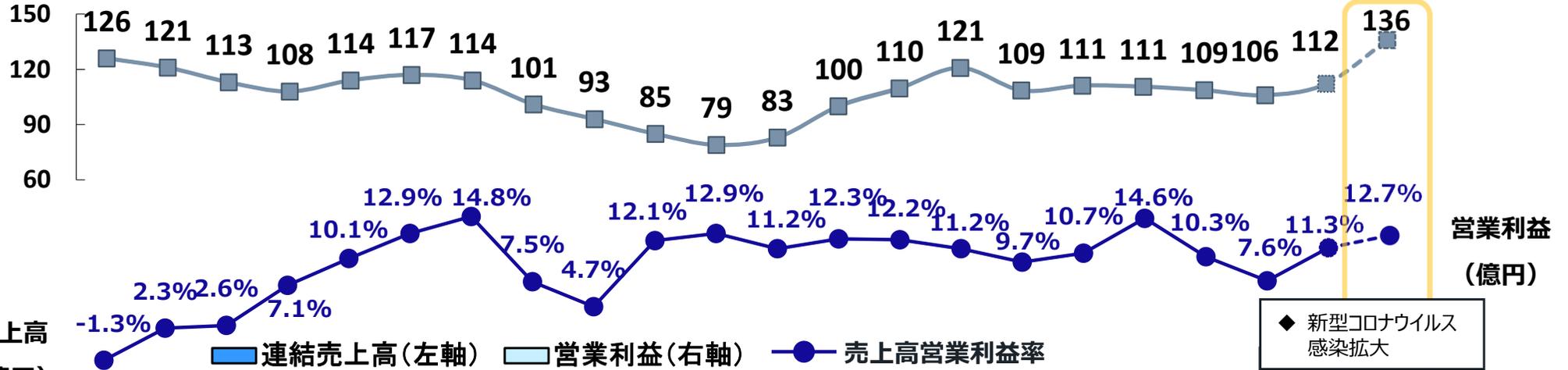
*ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インディセーズ：米国S&Pダウ・ジョーンズ社とスイスのロベコ・サム社によるSRI指標。

**企業や政府が温室効果ガス排出量を削減し、水資源や森林を保護することを推進する国際的な非営利団体

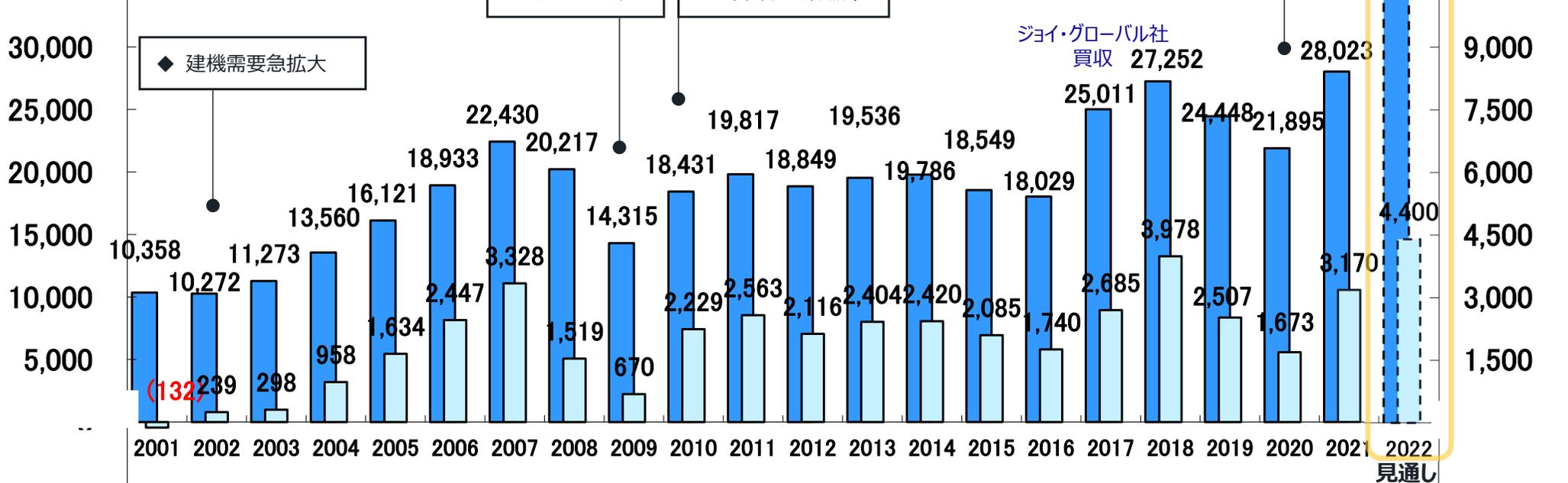
1. コマツの概要と強み
2. 中期経営計画
—成長戦略とESG課題解決—
3. 業績および株主還元について

年間業績推移

為替レート (円/ドル)



売上高 (億円)



海外生産拡大
多角化

選択と集中

ICTを活用したバリューチェーンの拡大

顧客価値創造

- ・ コマツでは、7つの主要な建設・鉱山機械について、地域別に需要を推定。（台数ベース）

主要7建機



ブルドーザー



油圧ショベル
(クローラー式)



油圧ショベル
(タイヤ式)



ホイールローダー



ダンプトラック



アーティキュレート
ダンプトラック



モーターグレーダー

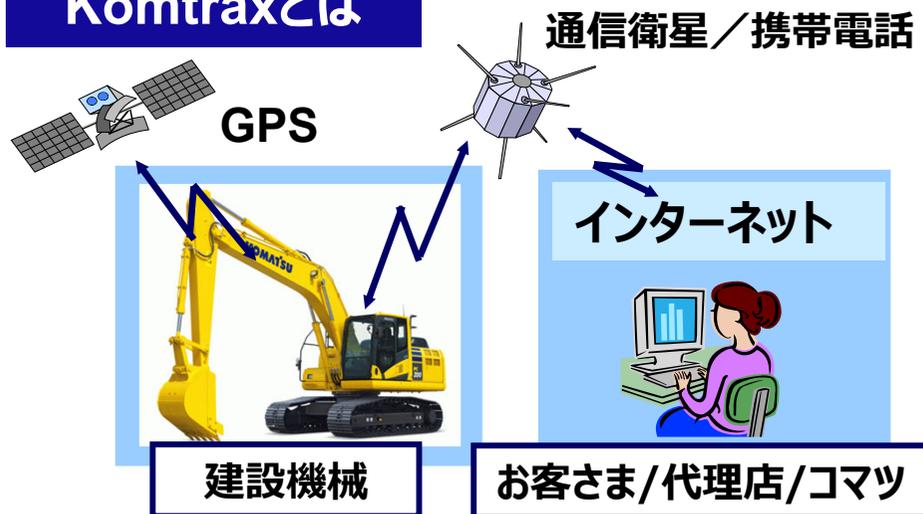
主要7建機需要伸び率（前年同月比）
コマツウェブサイト 需要・受注・稼働データ

<https://www.komatsu.jp/ja/ir/library/demand-orders>

ご説明の前に：用語説明 ②Komtrax稼働時間

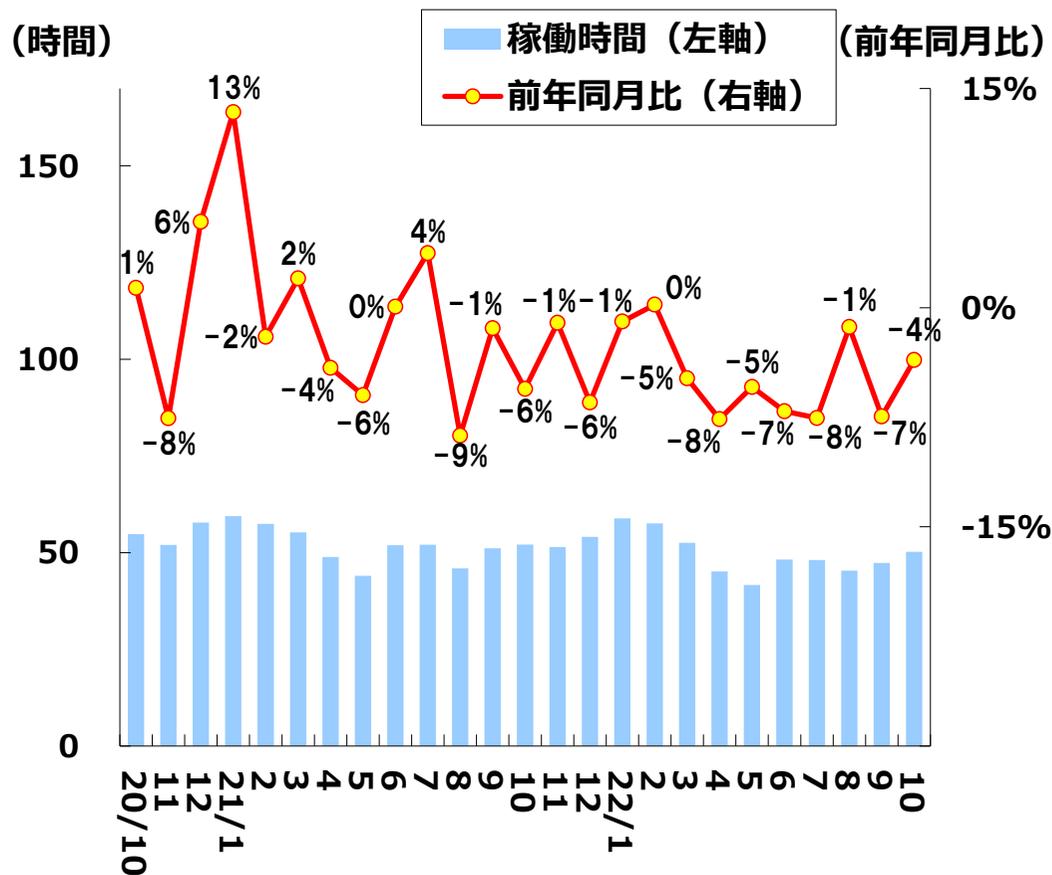
- Komtrax（Komatsu Machine Tracking System）とは、GPS等により遠隔地から機械の位置や稼働状況を把握・管理できるシステム。
- Komtraxから得られる機械の稼働時間を分析することで需要動向をよりタイムリーに把握。

Komtraxとは



全世界合計 約68万台(2022年5月末現在)

Komtrax月平均稼働時間推移（日本）



Komtrax月平均稼働時間（前年同月比）

コマツウェブサイト 需要・受注・稼働データ <https://www.komatsu.jp/ja/ir/library/demand-orders>

ご説明の前に：用語説明 ③物量差・構成差・販売価格差

- ・ 建設機械・車両の売上高とセグメント利益の増減要因は対前年同期比で分析・掲載。
- ・ 売上高の増減の他、製品・地域の構成や販売条件等の違いにより差異が発生する。

物量差

- ・ 売上高の増減とそれに伴う利益の増減。

構成差

- ・ 製品別では、コマツが強みとしている鉱山機械やアフターマーケット事業の収益力が高い。
- ・ 地域別では、鉱山機械の構成比が高い戦略市場の収益性が高い傾向がある。

<鉱山機械>



<アフターマーケット>



消耗部品

定期交換部品

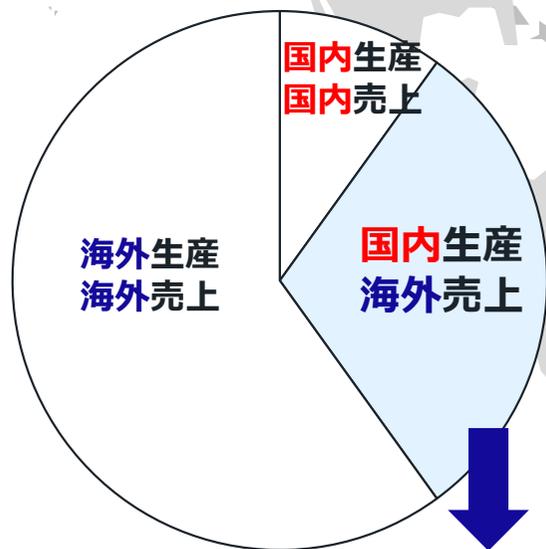
販売価格差

- ・ 販売価格の差異。値上げにより増加、値下げにより減少する。

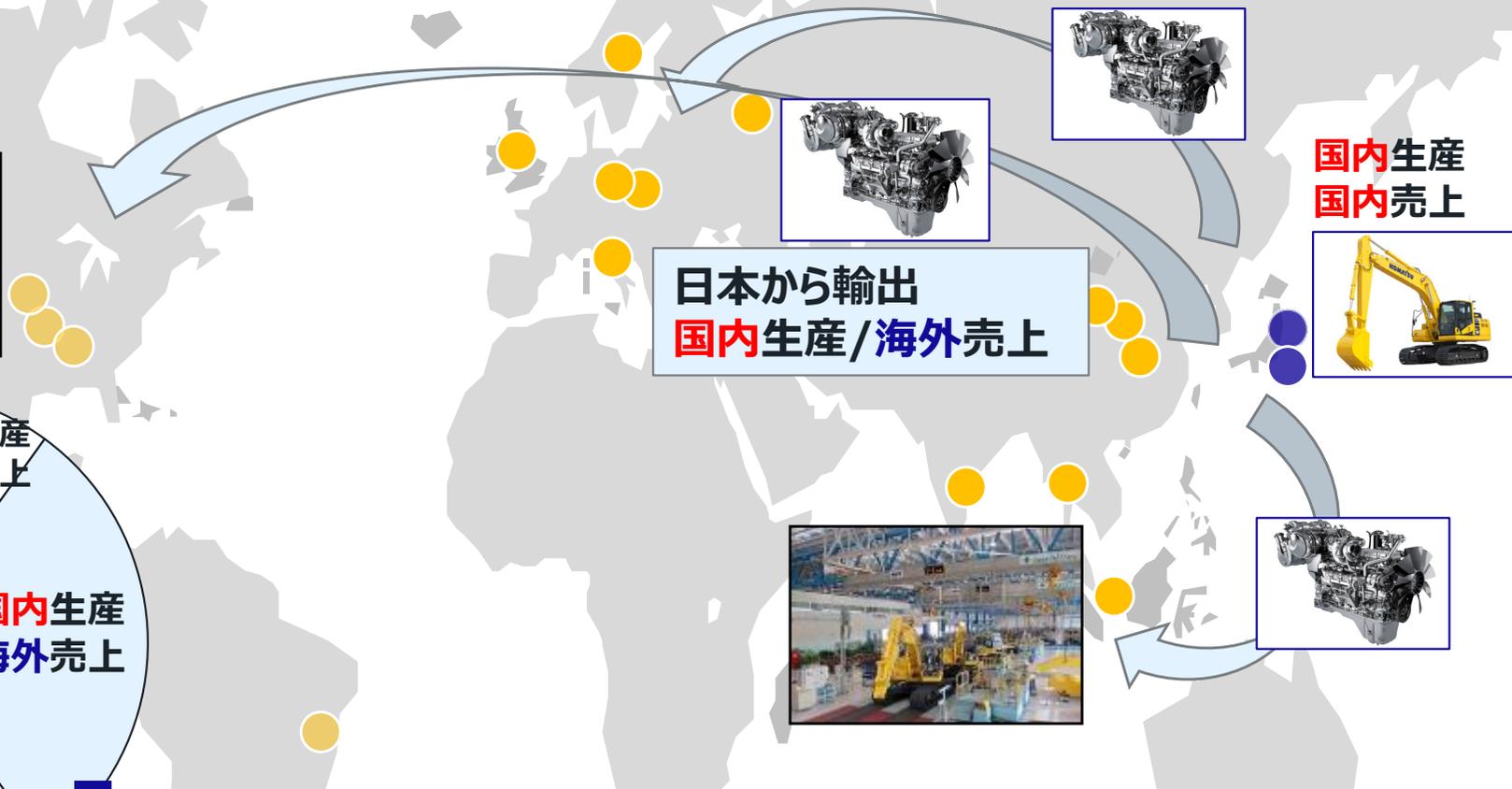
ご説明の前に：用語説明 ④ 為替差

- コマツは連結売上高の約 9 割が海外売上。
- 主要コンポーネントの開発・生産は日本で、本体の組立は需要の大きい地域で行う方針。
- 日本から輸出する部品や本体は**円建て**生産、**外貨建て**売上⇒ 利益に為替変動の影響

海外工場
で本体組立
海外生産/
海外売上



国内（円建て）生産、外貨建て売上
⇒ 利益に為替変動の影響あり



建設機械・車両の主な生産拠点（車体工場）

米州	欧州 CIS	中近東 アフリカ	アジア	中国	日本	合計
36	16	2	10	8	14	86

*坑内掘り鉋山機械の現地組立工場を含む

2022年度の業績見通し（概要）

- 連結売上高は前年比+23.5%増収の3兆4,600億円。
- 営業利益は前年比+38.8%増益の4,400億円。
- 1株当たり配当金は128円。

下期為替の前提 1ドル:140円、1ユーロ:137円、1豪ドル:89.0円に見直し。

金額単位：億円	2021年度 (A) ¥112.1/USD ¥130.4/EUR ¥82.7/AUD	2022年度 (10月見通し) (B) ¥135.8/USD ¥137.5/EUR ¥91.0/AUD	2022年度 (4月見通し) ¥118.0/USD ¥129.0/EUR ¥88.0/AUD	前年比 (B) - (A)	
				増減	増減率
連結売上高	28,023	34,600	30,000	+6,577	+23.5%
営業利益	3,170	4,400	3,460	+1,230	+38.8%
売上高営業利益率	11.3%	12.7%	11.5%	+1.4ポイント	-
当社株主に帰属する当期純利益	2,249	2,980	2,260	+731	+32.5%

ROE	10.9%	12.4%	10.0%	+1.5ポイント
1株当たり配当金（円）	96円	128円	96円	+32円
連結配当性向	40.3%	40.6%	40.2%	

2022年度の各セグメント売上高と利益の見通し

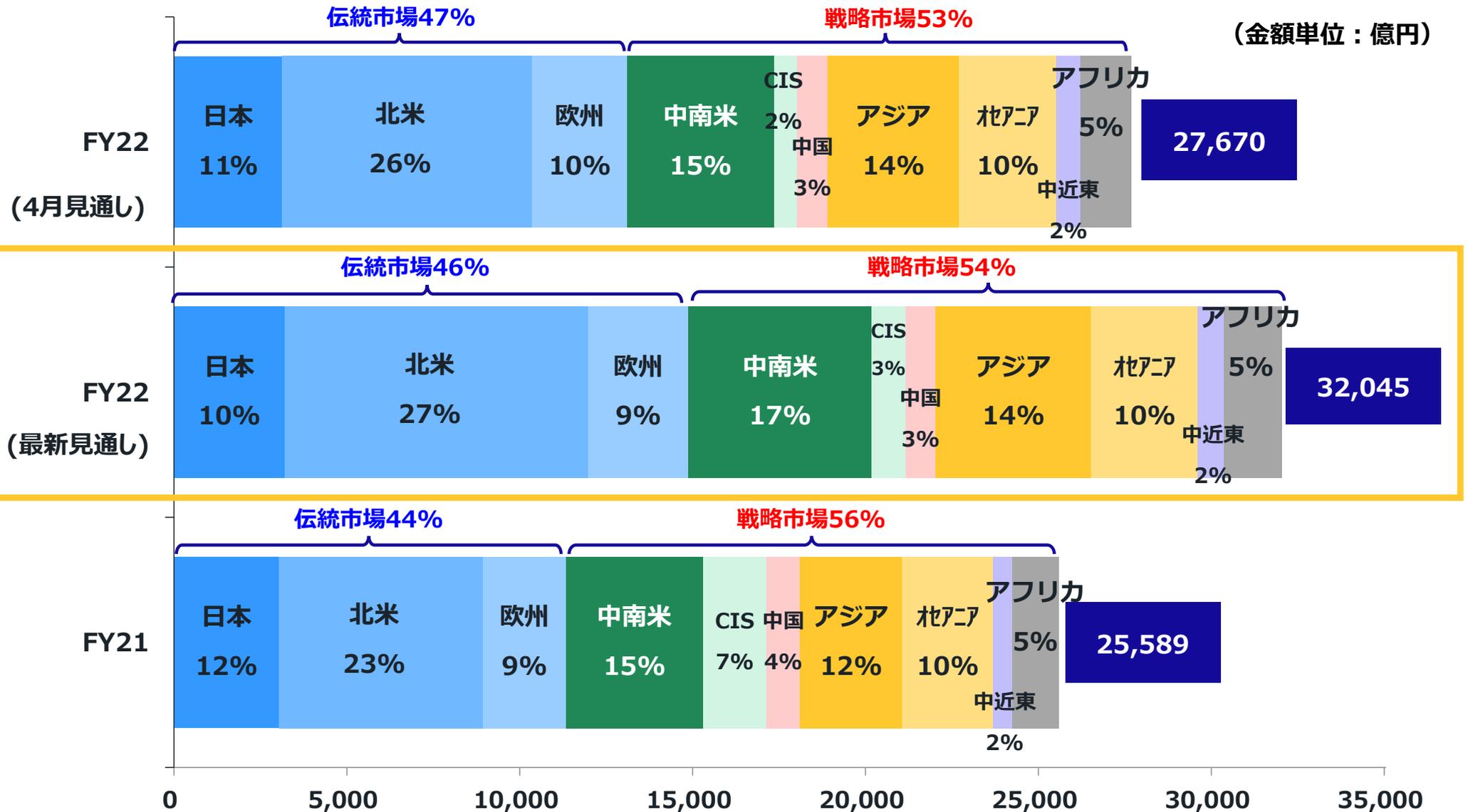
- 建設機械・車両部門の売上高は3兆2,100億円。セグメント利益は4,020億円。
- リテールファイナンス部門の売上高は835億円。セグメント利益は250億円。
- 産業機械他部門の売上高は1,920億円。セグメント利益は230億円。

□ % : 利益率 () : 外部顧客向け売上高

金額単位：億円	2021年度 (A)		2022年度 (10月見通し) (B)		2022年度 (4月見通し)		前年比 (B) - (A)	
							増減	増減率
売上高	28,023		34,600		30,000		+6,577	+23.5%
建設機械・車両	(25,589) 25,644	(32,045) 32,100	(27,670) 27,790	(+6,457) +6,457	(+25.2%) +25.2%			
リテールファイナンス	(578) 719	(665) 835	(530) 670	(+87) +116	(+15.0%) +16.2%			
産業機械他	(1,857) 1,884	(1,890) 1,920	(1,800) 1,830	(+33) +36	(+1.8%) +1.9%			
消去	▲ 223		▲ 255		▲ 290		▲ 33	-
セグメント利益	□ 11.3% 3,155	□ 12.9% 4,450	□ 11.6% 3,490	□ +1.6ポイント +1,295	+41.0%			
建設機械・車両	□ 10.8% 2,758	□ 12.5% 4,020	□ 11.4% 3,180	□ +1.7ポイント +1,263	+45.8%			
リテールファイナンス	□ 23.9% 172	□ 29.9% 250	□ 23.1% 155	□ +6.0ポイント +78	+45.4%			
産業機械他	□ 12.0% 226	□ 12.0% 230	□ 10.9% 200	□ +0.0ポイント +4	+1.8%			
消去または全社	▲ 0		▲ 50		▲ 45		▲ 50	-

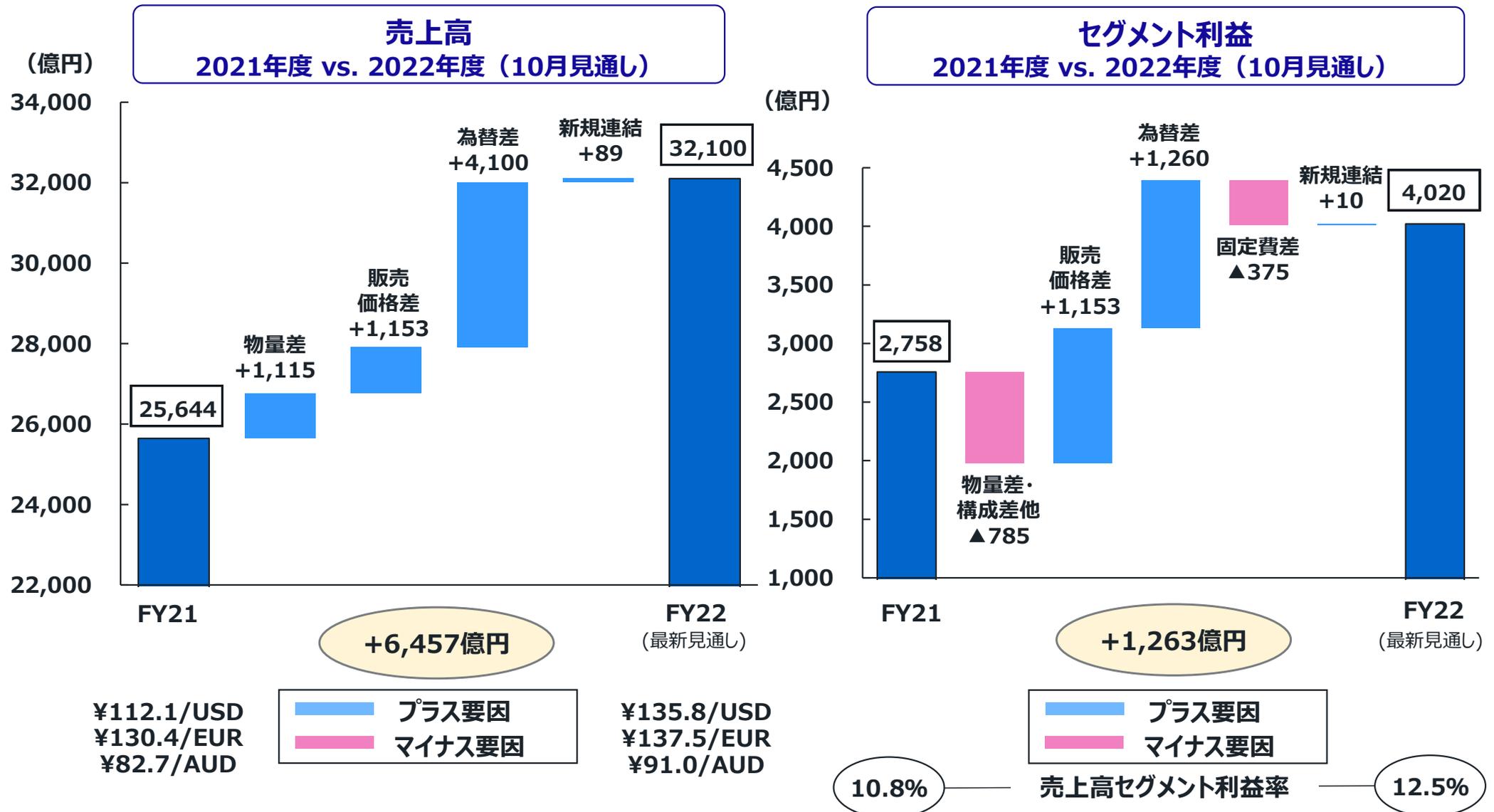
<建設機械・車両> 2022年度地域別売上高（外部顧客向け）の見通し

- 外部顧客向け売上高は前年比+25.2%増収の3兆2,045億円。
- CIS、中国を除く、すべての地域で増加。北米、アジア、中南米で大きく増加。
- 伝統市場の比率は46%、戦略市場の比率は54%。



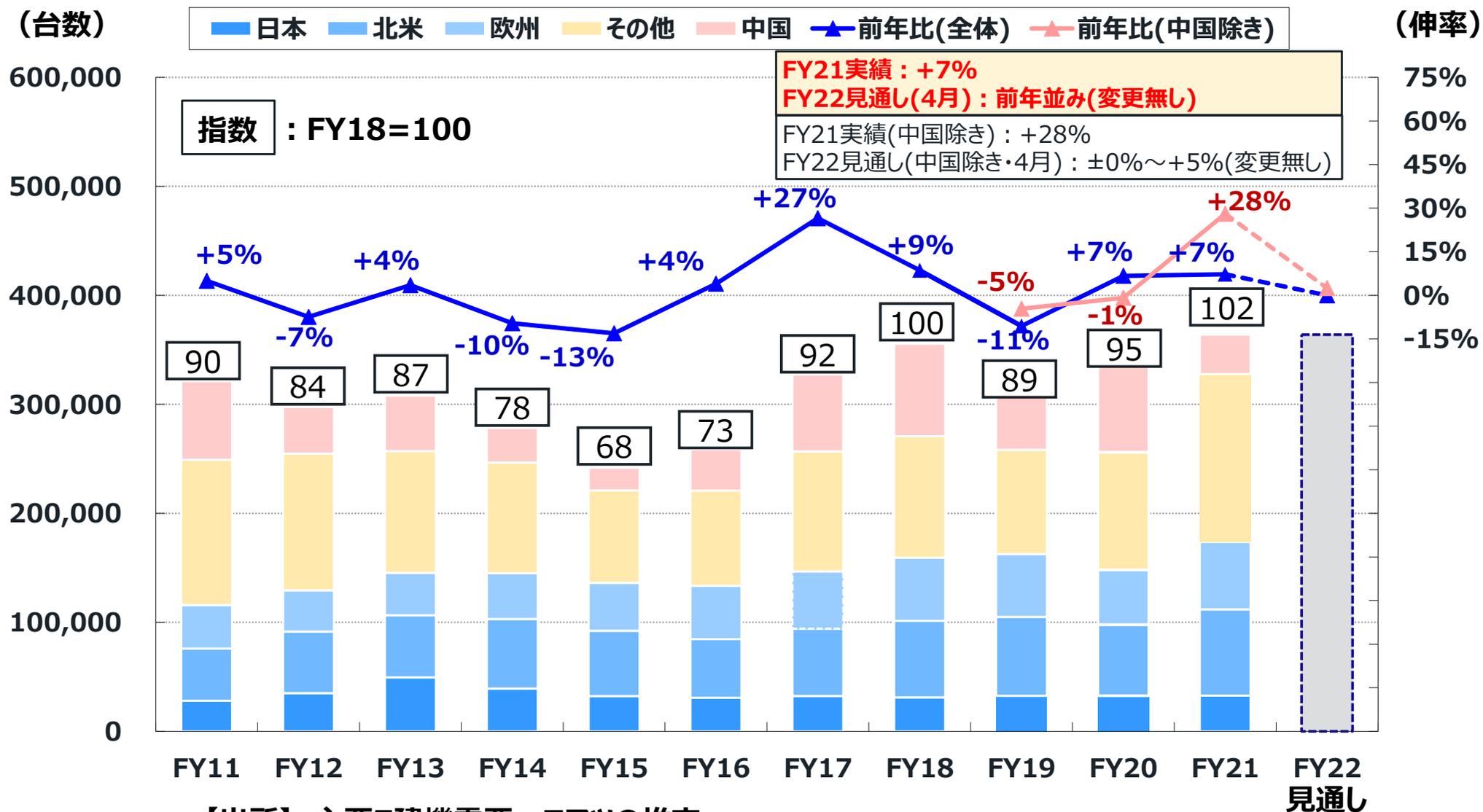
<建設機械・車両> 2022年度の売上高とセグメント利益の増減要因の見通し

- 売上高は、物量増、為替差および販売価格のプラス影響等により、+6,457億円の増収。
- セグメント利益は、資材価格や物流コストの上昇を販売価格の改善等で吸収。為替のプラス影響もあり、+1,263億円の増益。
- 売上高セグメント利益率は前年比+1.7ポイント上昇し12.5%。



<建設機械・車両> 主要7建機の需要推移と見通し

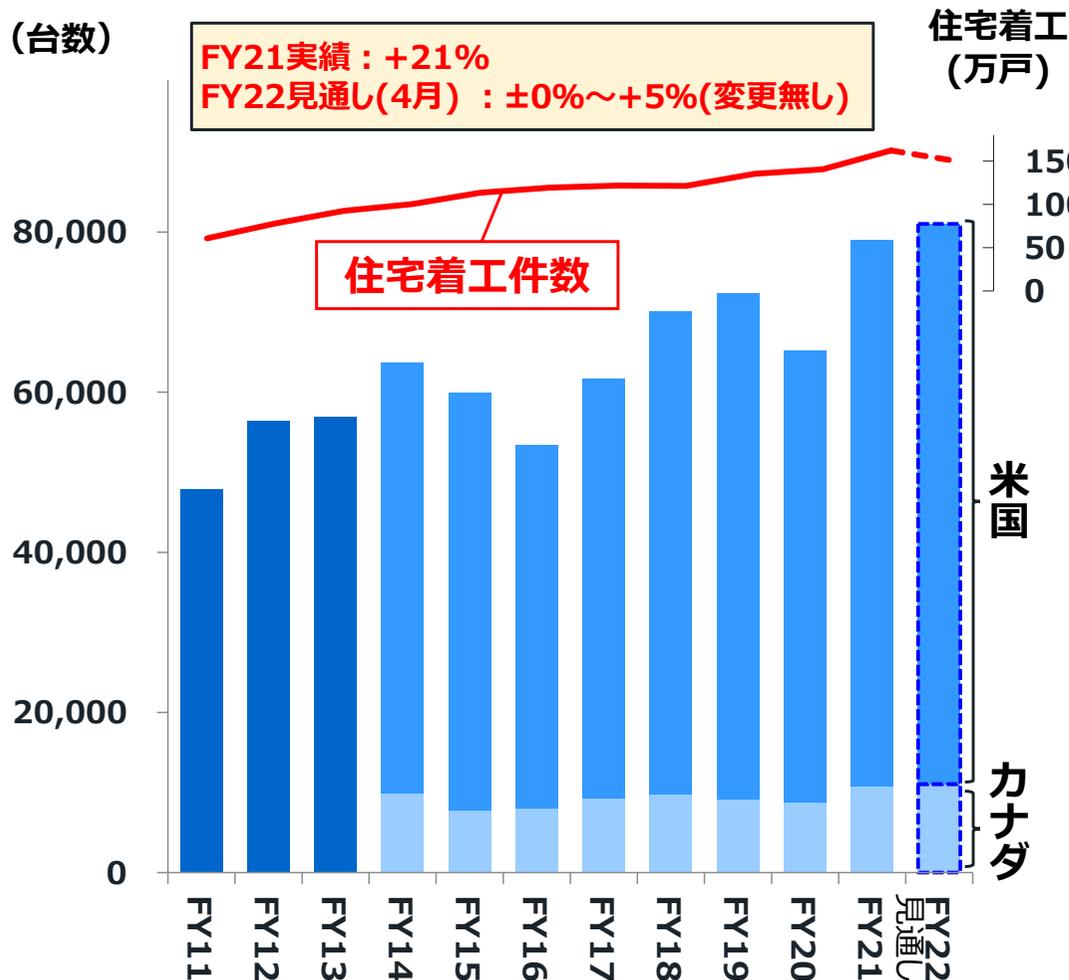
- 2022年度の需要は、前年並み。
- 中国を除く地域では前年比±0%～+5%の見通し。



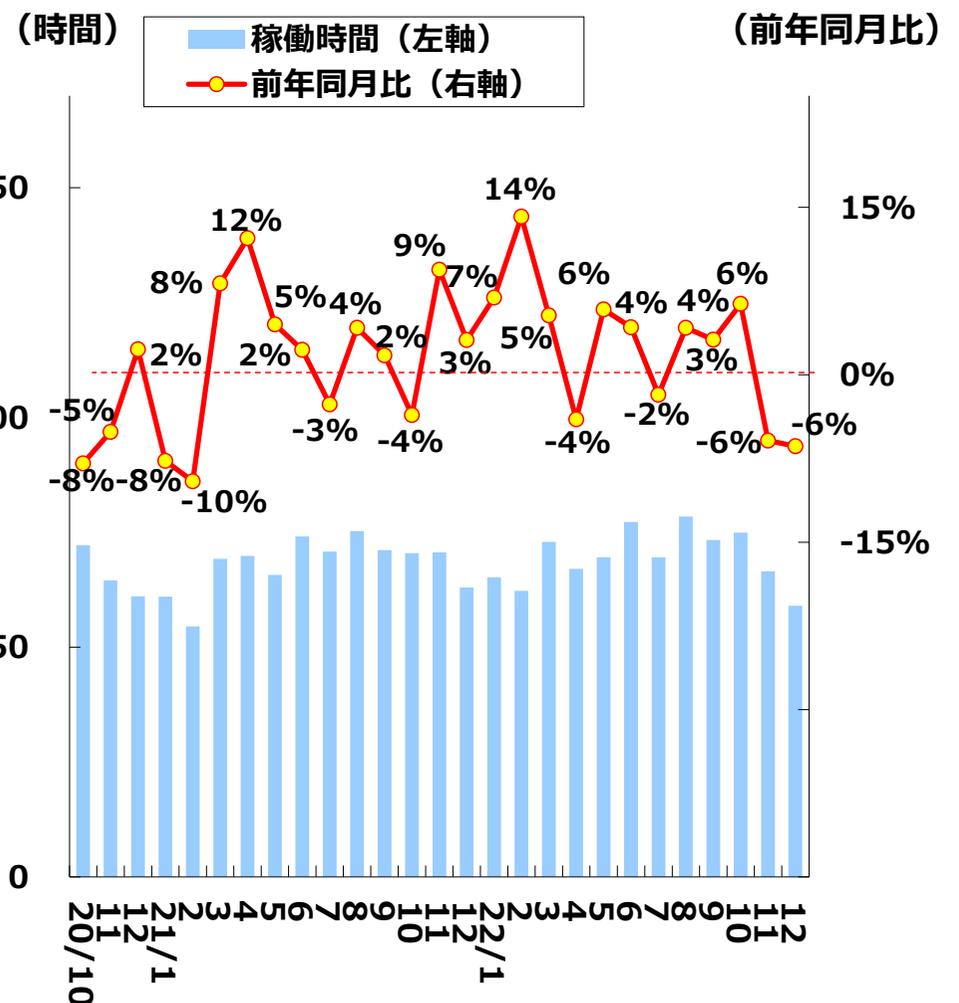
<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：北米

- 2022年度の北米需要は、前年比±0%～+5%の見通し（4月見通しから変更無し）。
- エネルギーやインフラ関連は好調を維持。一方で金利上昇や住宅着工件数の減少傾向により、住宅・非住宅向けの需要は減少。

主要7建機 需要推移と住宅着工件数



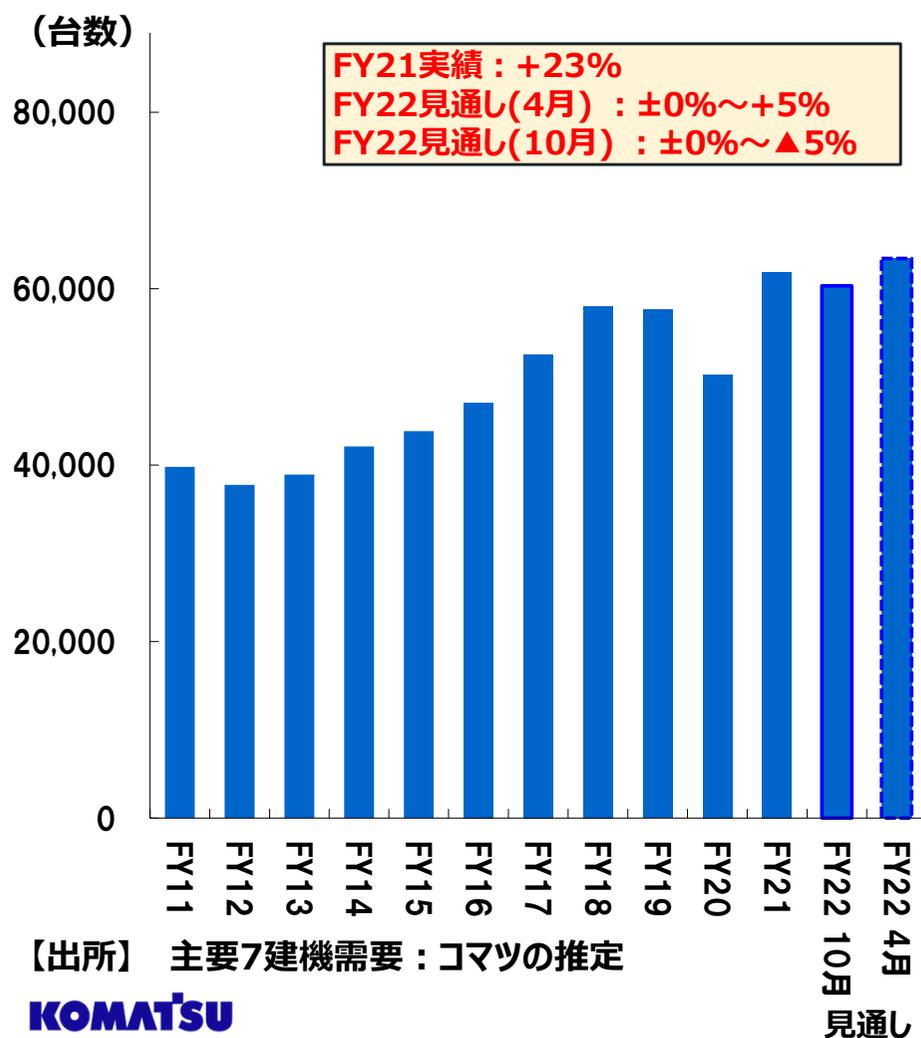
Komtrax (北米) 月平均稼働時間推移



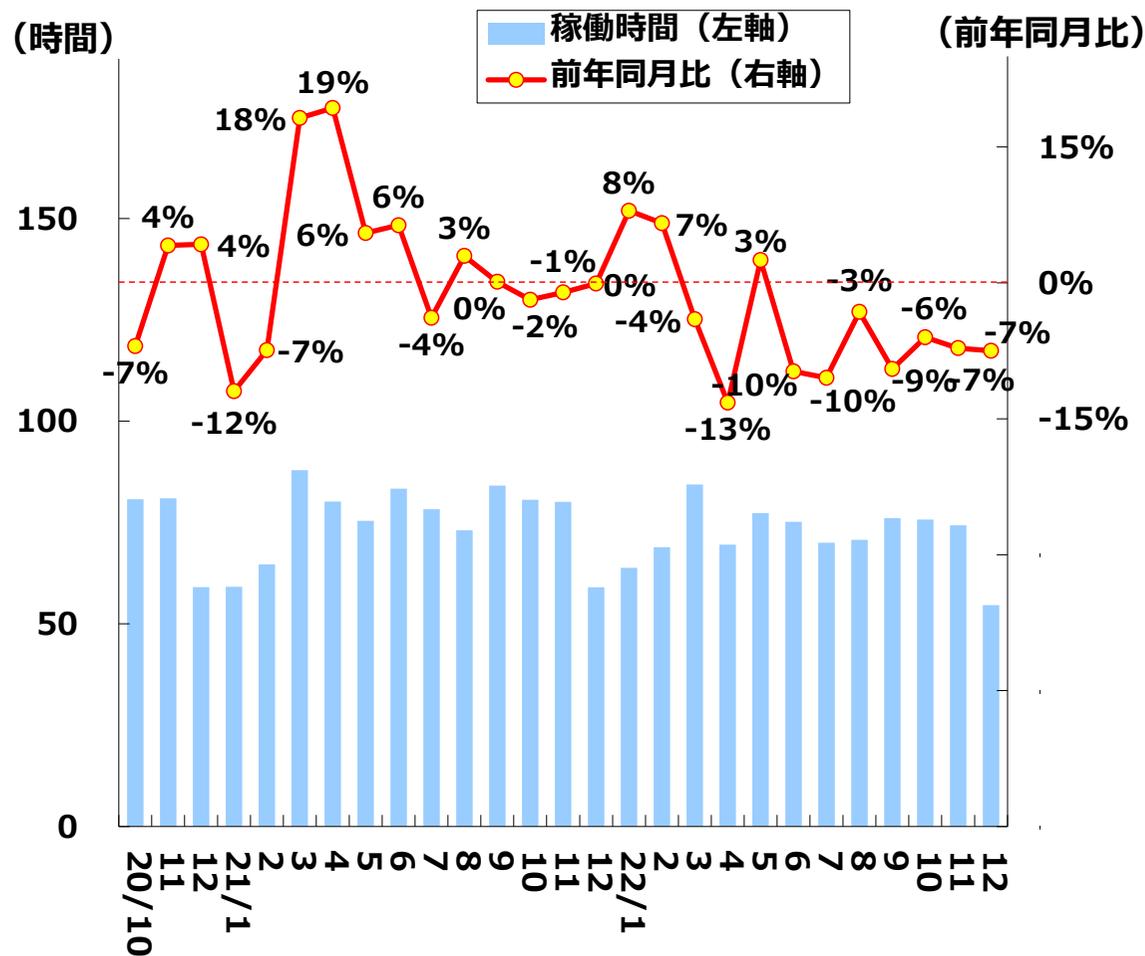
<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し： 欧州

- 2022年度の欧州需要は、前年比±0%～▲5%の見通し（10月見通しから変更無し）。
- サプライチェーンの混乱による供給遅れは改善が見込まれるものの、インフレや燃料価格の高騰による影響から需要は伸び悩み、引き続き動向を注視。

主要7建機 年度別需要推移



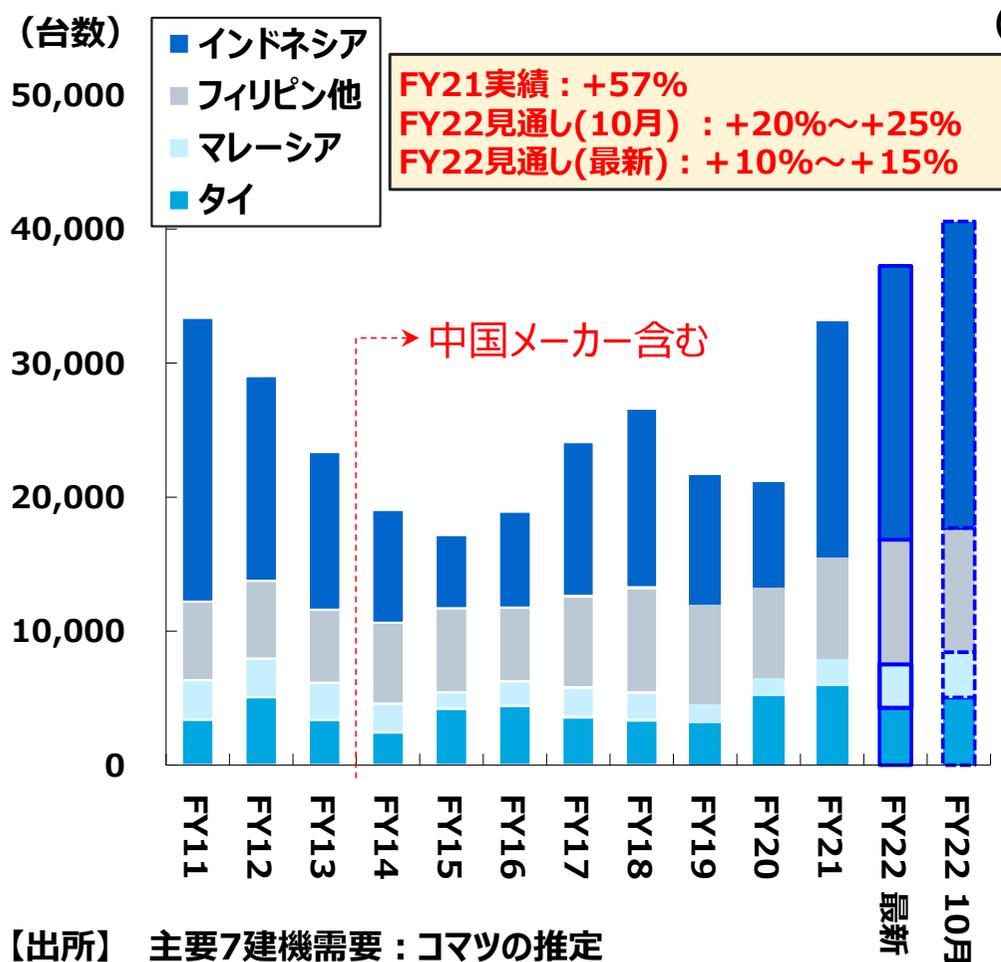
Komtrax (欧州) 月平均稼働時間推移



<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し： 東南アジア

- 2022年度の東南アジア需要は、前年比+10%~+15%の見通し（10月見通しから変更）。
- 鉱山機械は好調を維持。一般建機は、インフレ、金利上昇により需要の伸びが鈍化。

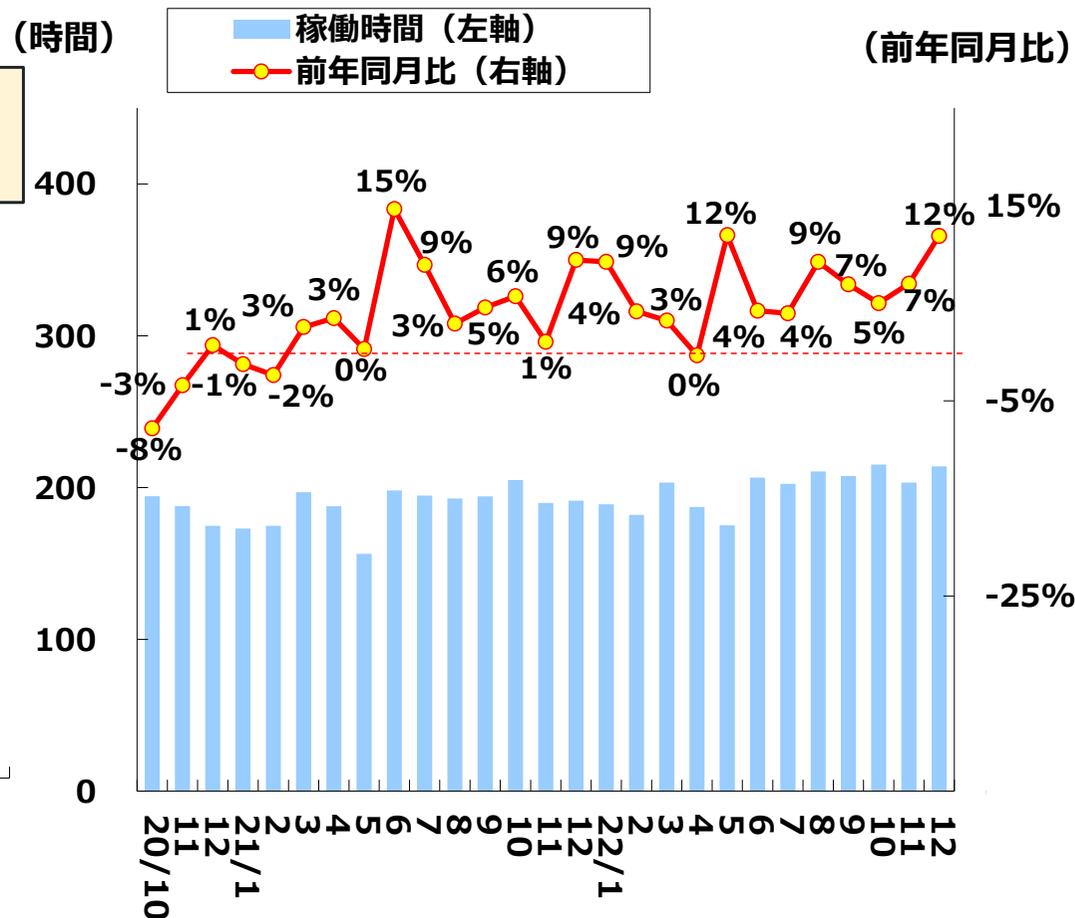
主要7建機 年度別需要推移



【出所】 主要7建機需要：コマツの推定

KOMATSU

Komtrax（インドネシア）月平均稼働時間推移

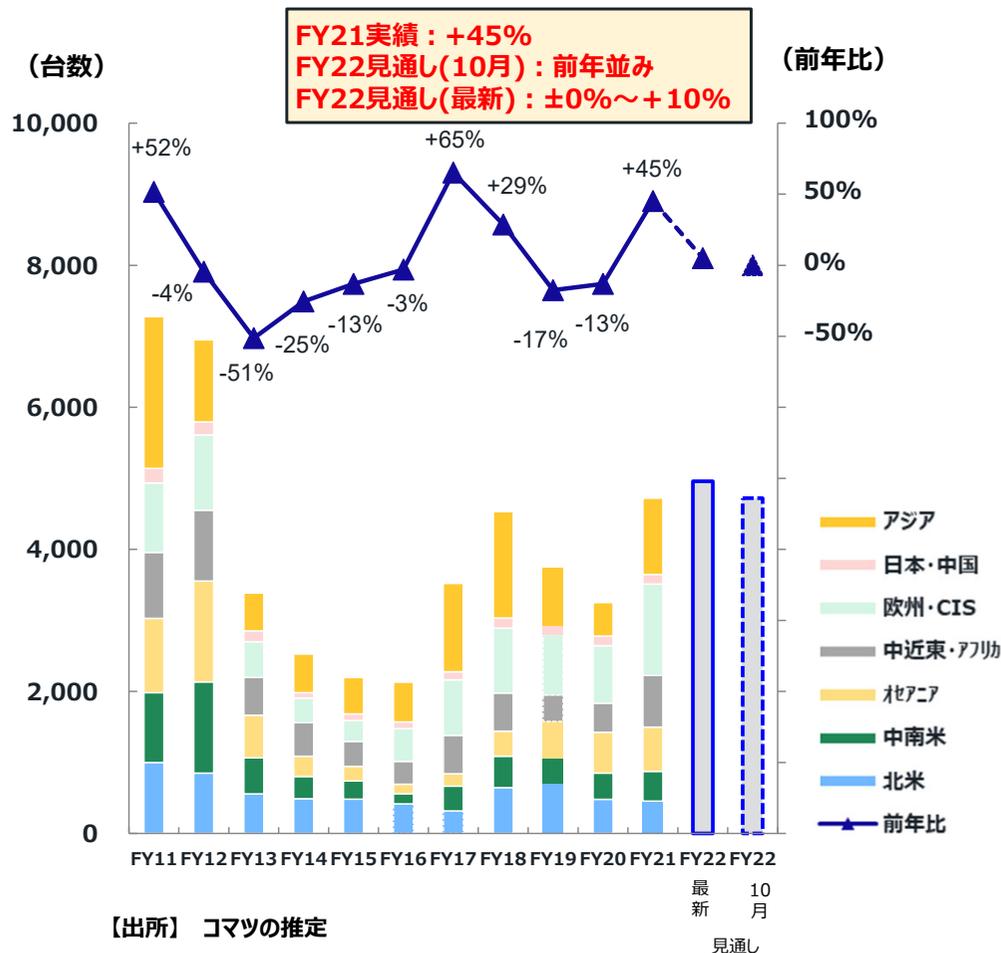


<建設機械・車両> 鉱山機械の需要推移と売上高の見通し

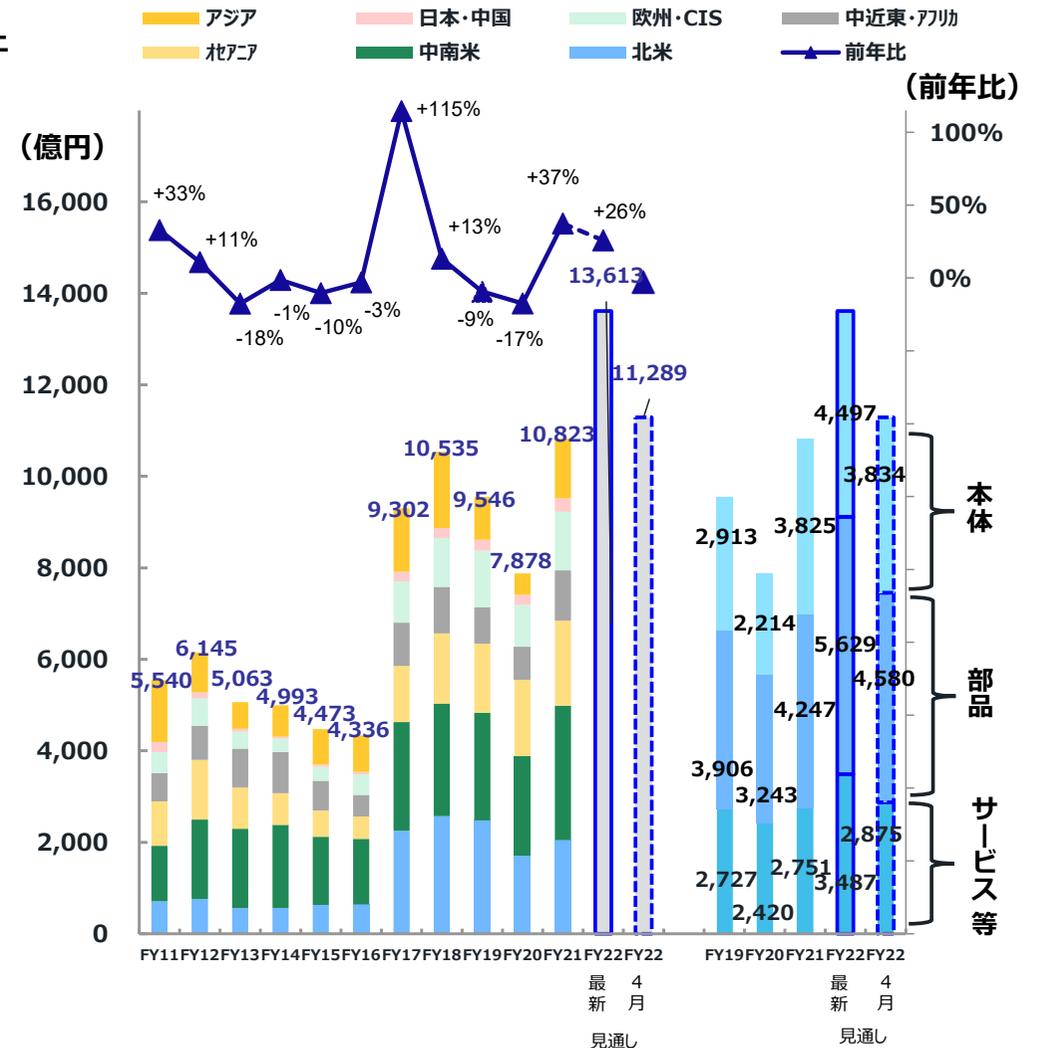
- 2022年度の需要は、前年比±0%～+10%の見通し（10月見通しから変更）。
- CISは需要が減少するも、インドネシアなどアジアを中心に需要が大きく増加。
- 2022年度の売上高は、前年比+26%増収の1兆3,613億円の見通し（10月見通しから変更無し）。

鉱山機械 年度別需要推移

・ダンプトラック：75t（HD785）以上 ・フルトラクタ：525HP（D375）以上
 ・エクスカバータ：200t（PC2000）以上 ・ホイローラータ（機械駆動）：810HP（WA800）以上
 ・モータグラータ：280HP（GD825）以上



鉱山機械 年度別売上高（部品・サービス等含む）



配当方針

- 当社は、持続的な企業価値の増大を目指し、健全な財務体質の構築と競争力強化に努めています。
- 配当金につきましては、連結業績に加え、将来の投資計画やキャッシュ・フローなどを総合的に勘案し、引き続き安定的な配当の継続に努めていく方針です。具体的には、**連結配当性向を40%以上とする方針**です。

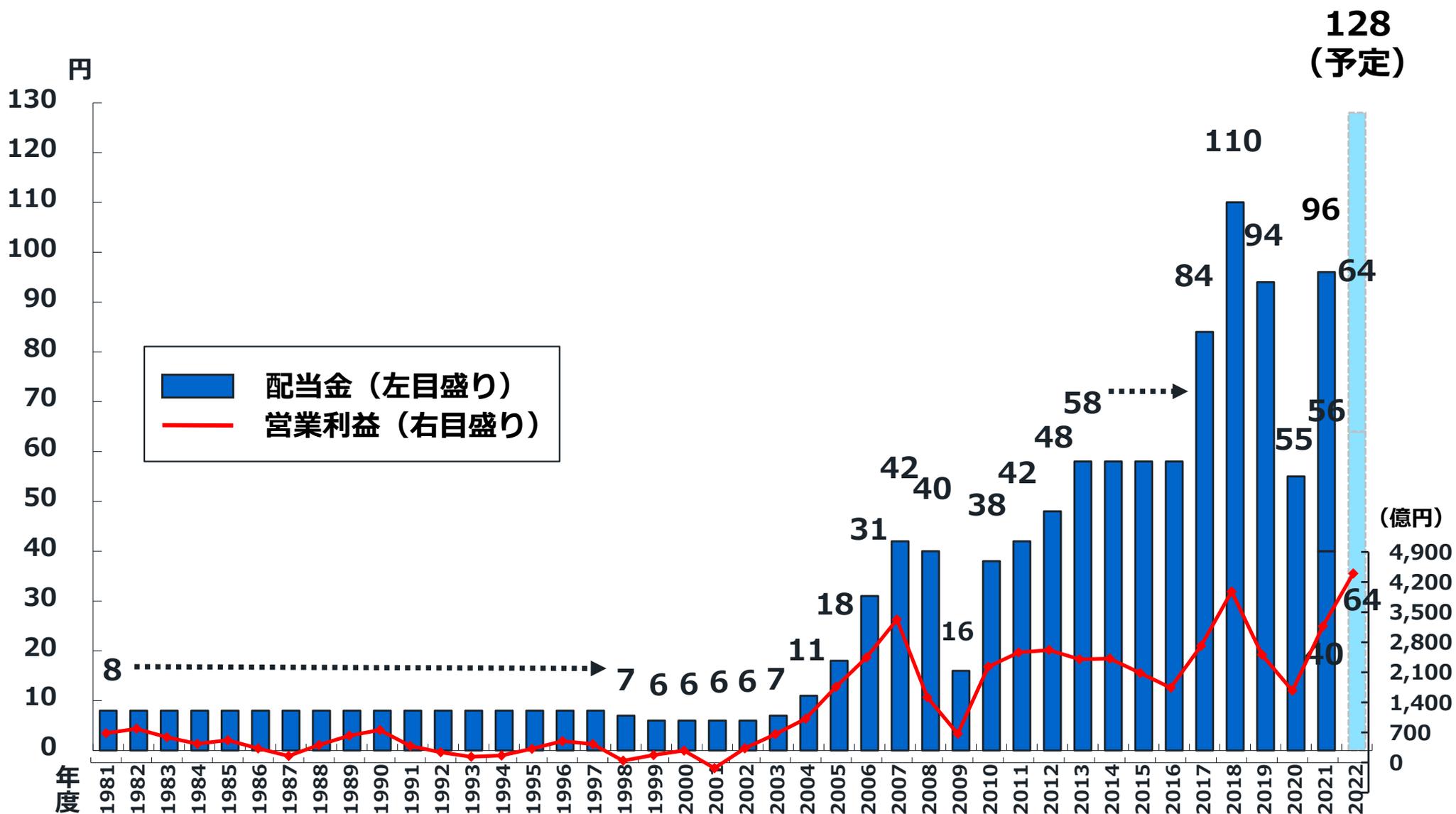
<連結配当性向推移>

	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19	'20	'21	'22予想
配当方針	20%以上		20%~40%				30%~50%			40%~60%			40%~				
連結配当性向 総還元性向	19%	20%	40% 88% *	38% *	24%	24% 42%	36%	35%	36% 55%	40%	48%	40%	41%	58%	49%	40.3% ※	40.6%

* 2008年度、2009年度は構造改革費用を除いたベース

※ 2020年度の1株当たり配当金には、当社創立100周年の記念配当10円を含む。

配当金の推移



2020年度は記念配当金10円を含む
 配当金に加えて、2008年度、2011年度、2014年度にそれぞれ約300億円の自己株式取得を実施

コマツの株価推移

2002年3月末からの株価変化率（各月の終値ベース）





- 2008年よりNPO「日本地雷処理を支援する会（JMAS）」と提携し、地雷処理から復興までのコミュニティ開発を目的とした支援活動に取り組む。
- 昨年11月カンボジアでの地域復興支援プロジェクトにおいて、10校目の小学校が完成、開校式典を開催。

地雷原

機械で素早く
安全に除去



コミュニティの復興



ブルドーザーベース<地雷処理用>



油圧ショベルベース<不発弾処理用>

道路整備・灌漑工事



小学校建設



農業用建機による農地復興



動画上映 10校目小学校開校式（2022年11月）

ご清聴ありがとうございました。



【業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項】

前述の将来に関する予想、計画、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績は様々な要因の変化により、本資料の予想、計画、見通しとは大きく異なることがありうることをあらかじめご理解ください。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、および国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが考えられます。

コマツ サステナビリティ推進本部コーポレートコミュニケーション部 TEL: 03-5561-4711 <https://www.komatsu.jp/ja>

参考資料

坑内掘りハードロック向け鉱山機械事業の取り組み

- 商品ラインナップの拡充と坑内ソリューションの技術・ノウハウ獲得により、更なる成長を目指す。
- 気候変動への意識の高まりや環境問題の深刻化に対応するため、新商品とともに新工法を開発。

鉱山機械ラインナップの拡充

～ドイツGHH社の買収～



GHH社の坑内掘りダンプトラック

デジタルソリューション技術の獲得

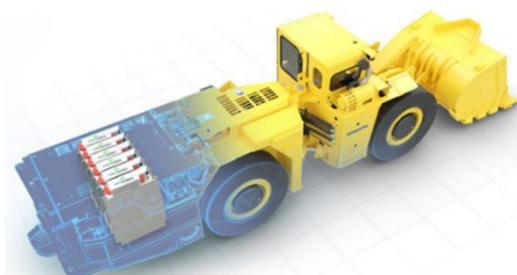
～豪州マインサイトテクノロジーズ社の買収～



坑内掘り鉱山向けの通信システムと坑内測位・近接検知ソリューション

既存製品における ダントツ商品開発・電動化

～米国プロテラ社との協業契約を締結～



プロテラ社リチウムイオンバッテリー
搭載のLHDのイメージ

KOMATSU

岩盤掘削新工法実現のための 新たなチャレンジ

～メカニカルカッターMC51トライアル実施中～



Vale社のGarson Nickel Mine(カナダ)
のほか、顧客現場でトライアル実施中

坑道掘削新工法実現のための 新たなチャレンジ

～チリ国営のコデルコ社とのマイニングTBMトライアル～

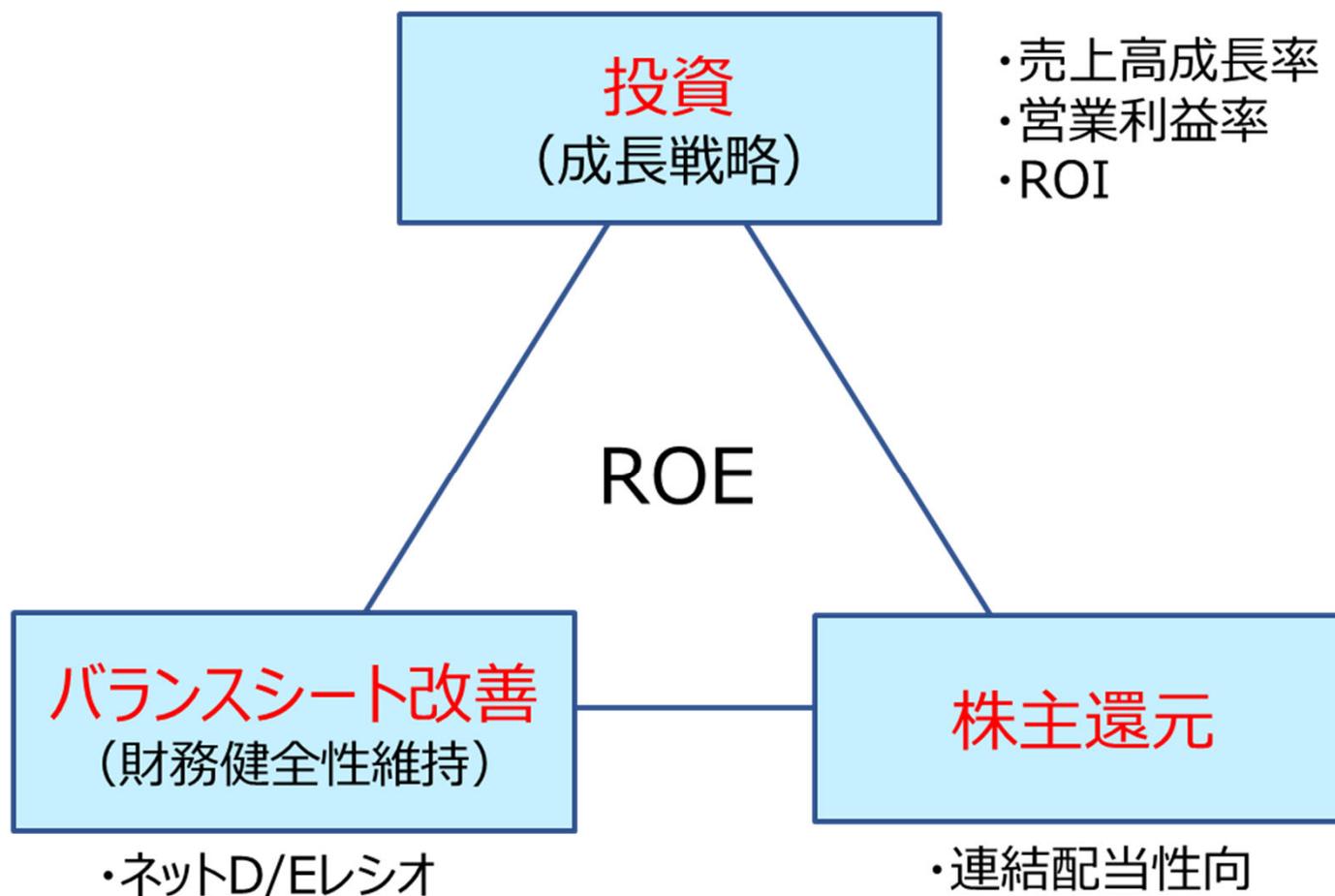


コデルコ社のチュキカマタ鉱山(チリ)
でトライアル開始予定(FY24以降)

オンライン会社説明会

キャッシュ・アロケーションの考え方

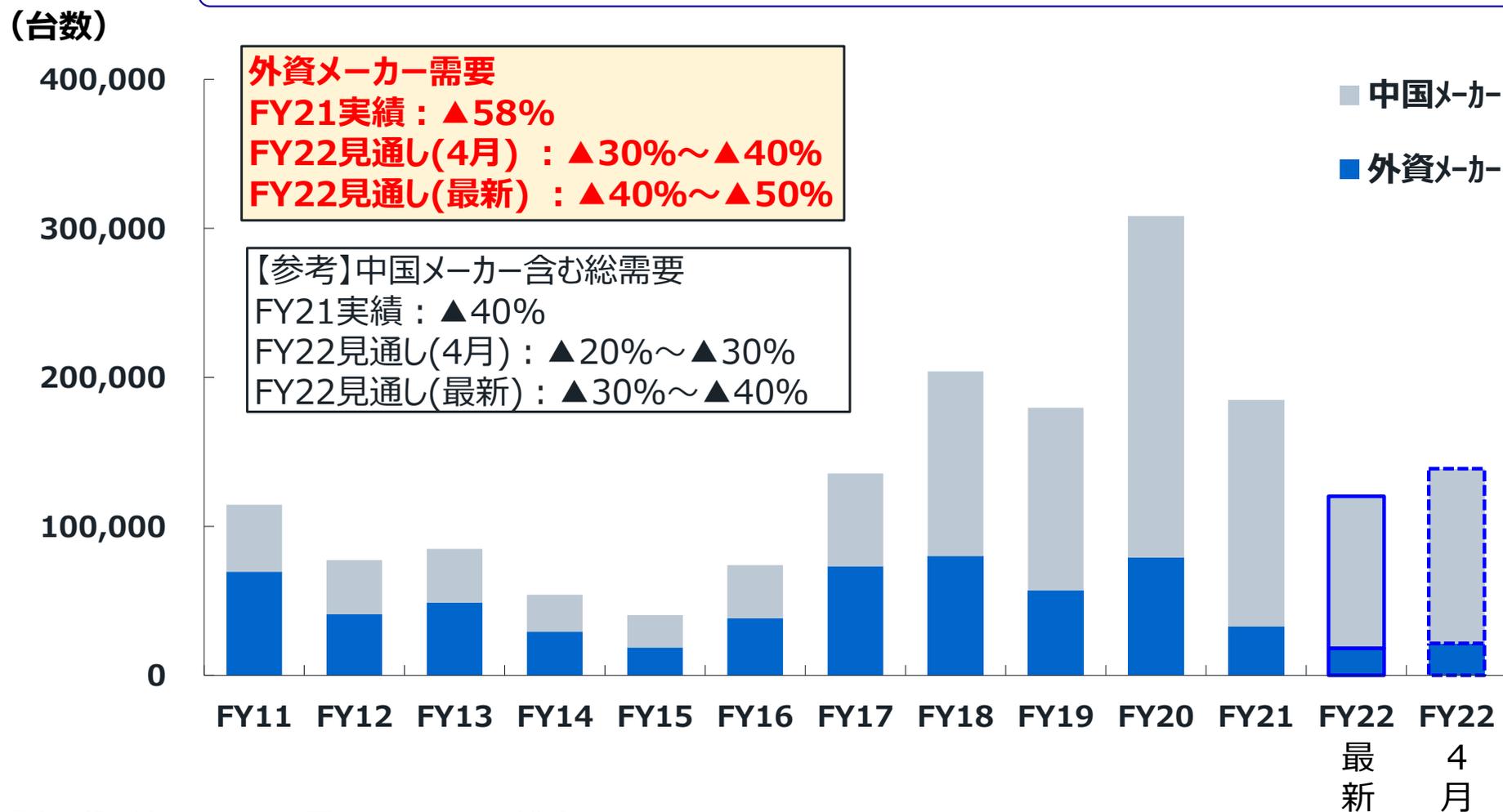
- 営業キャッシュ・フローの資金使途は、①投資（成長戦略）②バランスシート改善（財務健全性維持）③株主還元 にバランスよく配分。
- キャッシュ・アロケーションの原資となる営業キャッシュ・フローの拡大とともに、将来の安定的な株主還元を継続するため、成長分野への効率的な投資を図る。



＜建設機械・車両＞ 主要市場の需要推移と見通し：④中国

- ・2022年度第3四半期の需要は、前年同期比▲11%の減少。
- ・2022年度の需要は、前年比▲40%～▲50%の見通し（4月見通しから変更）。

油圧ショベル 年度別需要推移（ミニショベルを除く）



【出所】 油圧ショベル需要：コマツの推定

見通し

コマツの強み レジリエントな生産・調達体制

- 需要・為替の変動など、各工場の生産能力を有効活用し、最適な工場生産して輸出。
- パンデミック・自然災害・地政学的リスクなどの環境変動に強い生産調達体制の構築を推進。

グローバルクロスソース体制

<中型油圧ショベルのクロスソーシング例>



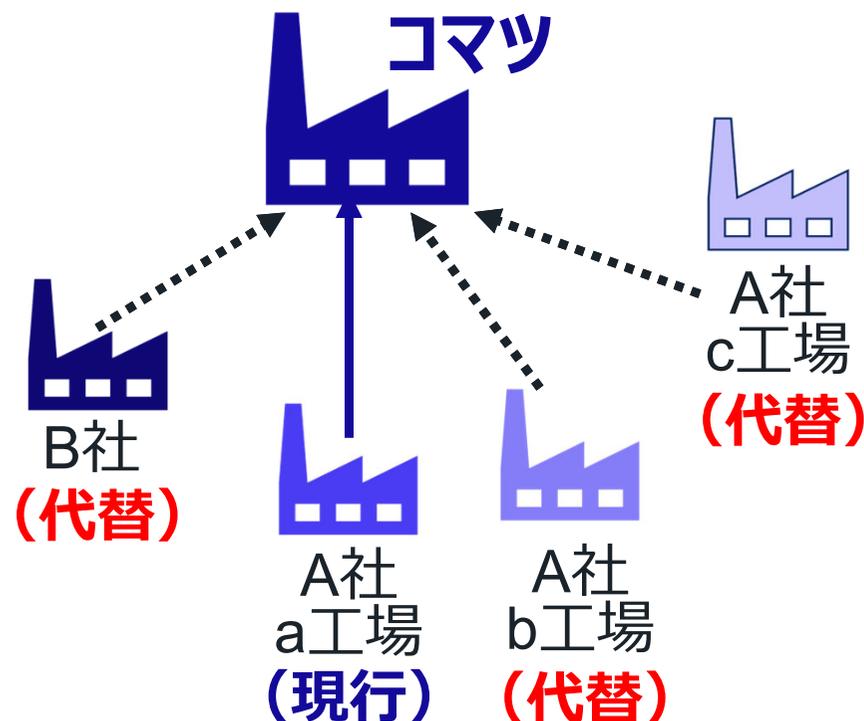
<必要条件>

- ①ベースマシンの統一
- ②生産管理システムの統一
- ③生産・設計BOM※の統一
- ④製造プロセス・品質基準の統一

※BOM: Bill of Material 部品表現単位

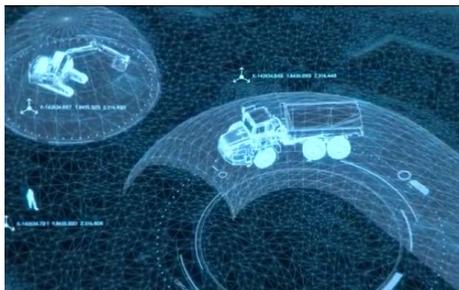
調達マルチソース体制

複数メーカーからの部品購入、現地調達拡大



中期経営計画（2022年度～2024年度）：成長戦略におけるおもな重点活動

1. イノベーションによる成長の加速



現場を最適化する新たな顧客価値の創造

- DXスマートコンストラクションの推進、海外展開
- 鉱山用オープンテクノロジープラットフォームによる事業推進
- プラットフォームと親和性の高い高度化した商品開発・市場導入

カーボンニュートラルに向けた価値（モノ・コト）づくりの挑戦

- 電動化機械の開発・市場導入
- スマート林業の普及・拡大
- 地球環境負荷ゼロ工場

2. 稼ぐ力の最大化



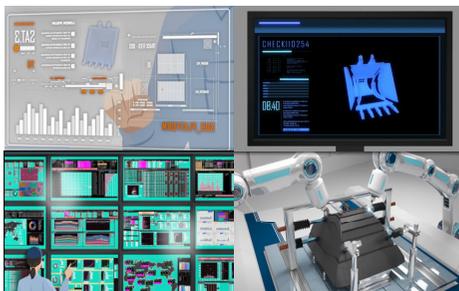
成長市場におけるプレゼンス拡大

- アジア・アフリカ市場への取り組み強化
- 林業機械事業、坑内掘りハードロック事業の拡大
- アフターマーケット事業の拡大

バリューチェーンビジネスの進化による更なる成長

- データ・ドリブン・ビジネスモデルの構築
- ライフサイクルサポートビジネスによる差別化の推進
- リマン・リビルド事業の拡大

3. レジリエントな企業体質の構築



効率的な事業運営とリスクマネジメントの強化

- 環境変動に強い生産調達体制の強化（マルチソース比率の拡大）
- 経済安全保障リスクのアセスメントと体制の整備
- グローバルなブランド戦略の展開によるコーポレートブランドの強化

多様性に富む人材基盤の充実化

- ダイバーシティ&インクルージョンの推進
- 多様な能力開発機会の提供とエンゲージメントの向上
- デジタル人材、オープンイノベーション推進人材の育成

- ・「持続可能な循環型林業」に貢献するため、植林・造林、育林、伐採のあらゆる工程の機械化を進めている。

● 植林分野への新商品導入



植林
自動運転植林機
D61EM-23M0



地拵え
地拵え用機械
D85EX サブソイラー



● 伐採、搬出作業の生産性・安全性向上



伐倒
油圧ショベルベースの林業機械
PC130F ハーベスター仕様



搬出
傾斜地にも対応する集材作業車
フォワーダー895

AHSを含む鉱山自動化への取り組み

- 2008年コマツが世界で初めて商用導入した、鉱山向け無人ダンプトラック運行システム。600台が稼働中。
- 鉱山全体の自動化のため、超大型油圧ショベルやブルドーザーの遠隔操作・自動運転のトライアルを推進中。

AHS4カ国
(オーストラリア、カナダ、ブラジル、チリ)
21現場にて600台※

※2022年12月末現在

Anglo American社銅鉱山（チリ）へAHS導入



HD785-7ベースの無人散水車開発完了



超大型油圧ショベルの遠隔操作と無人専用運搬車両



遠隔操作・自動運転ブルドーザー顧客サイトトライアル

